

「 「 「 「
「 「 「
「 「
「

♪ ジョイコン NEWS ♪

第 5 号 2014 年 4 月 17 日

みなさん、今年のお花見は如何でしたか？

ニュースで「桜が開花した」とか「桜前線」というときの桜は、ソメイヨシノ（染井吉野）が対象になっています。

その桜前線も順調に北上中で、16日には青森県むつ市に到達したようです。

それでは、「♪ジョイコン NEWS ♪」（第5号）をお届け致します。

【もくじ】

【1】次回コンサートのご案内

◆第9回コンサート

【2】今後の予定（先取り情報）

◆第10回コンサート

◆第11回コンサート

【3】「我が師の恩」は日本だけ？

【4】コンサートのアンケートから

【1】次回コンサートのご案内

■■ 第9回コンサート ■■

◇ 2014年5月18日（日曜日）14:00開演（13:30受付開始）

◇ 出演：大倉山カルテット

對馬哲男（ヴァイオリン）、森岡聡（ヴァイオリン）、
鈴村大樹（ヴィオラ）、山本直輝（チェロ）

◇ プログラム（予定）

- ・ハイドン：弦楽四重奏曲第38番変ホ長調 Op. 33-2「冗談」
- ・メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲第4番ホ短調 Op. 44-2
- ・ラヴェル：弦楽四重奏曲へ長調

第9回ジョイフルコンサートは

『弦楽四重奏の調べ』と題して、お届けします。

2013年5月ジョイコンで若さあふれる渾身の演奏を聞かせてくれた「大倉山カルテット」の再登場です。

ちなみに、去年の演奏の一部

（ドビュッシー：弦楽四重奏曲ト長調 Op. 10 第4楽章）はこちら↓

<http://www.youtube.com/watch?v=efSa3iuUTDA>

で見ることができます。

ご興味のある方は是非ご覧ください。

古典、ロマン派、近代と西洋音楽の発展を感じて欲しいという演奏者の意気込みが伝わってくるプログラムです。

▼ハイドン：弦楽四重奏曲第38番変ホ長調 Op. 33-2「冗談」

ハイドン(1732-1809)は古典派を代表するオーストリアの作曲家で数多くの交響曲、弦楽四重奏曲を作曲し、交響曲の父、弦楽四重奏曲の父と言われています。

この曲を含む「弦楽四重奏曲<ロシア四重奏曲 第37番から42番>」にモーツァルトは大変感銘を受け、後に「ハイドン・セット」と呼ばれる弦楽四重奏曲をハイドンに献呈しているそうです。

この「冗談」というのは最終楽章のユーモラスな終わり方から来ているそうです。どんな終わり方かどうぞ楽しみにお聴きください。

▼メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲第4番ホ短調 Op. 44-2

メンデルスゾーン(1809-1847)は経済的には恵まれない作曲家がほとんどの中で裕福な家に生まれ、音楽にも小さい頃から英才教育とも思われる教育を受けています。

44-2ですが、セシルと結婚し、その新婚旅行中に書き始め、3か月で書き上げたそうです。作品44の中では最初に作られたものです。

より古典的な形式に則ったより緊密、緻密な構成によって音楽をまとめ上げられているそうなので、重厚で難しいかもしれませんが、正統派のクラシック音楽をお楽しみください。

メンデルスゾーンは姉のファニーの死後、半年も経たないうちに38歳で亡くなります。裕福な家に生まれ、才能も豊かなメンデルスゾーンがそんな短命というのは何とも皮肉な運命を感じます。

▼ラヴェル：弦楽四重奏曲へ長調

「オーケストレーションの魔術師」といわれたラヴェル(1875-1937)ですが、弦楽四重奏曲はこの1曲のみです。

梅雨の季節に聴きたい音楽としてブログで紹介している人がいます。そのブログにはとにかく格好いい、ラヴェルのダンディズムが非常に感じられると書いてあって、思わず笑ってしまいました。

確かに聴いてみると和音とかメロディーの進み方がとっても不思議で微妙な感じでそれが何とも言えない不思議な世界を作っているかもしれません。不協和音の一手前みたいな感じです。それが梅雨に合うのかどうかはわかりませんが。どちらかというともっとタイとかバリとかの雨季の方が合ってるかもしれません。

ラヴェルもたくさんの曲を発表していながら、斬新すぎたのか権威のあるローマ大賞は何度挑戦しても大賞を獲ることはできませんでした。

☆とてもヴァリエーションに富んだ内容です。
昨年よりも更にパワーアップした演奏を聞かせてくれると期待しています。
どうぞお楽しみに。

【大倉山カルテット】
ジョイコンがベル音楽事務所との協力でプロデュースした弦楽四重奏団です
★ジョイコンは若い力を応援しています★

■予約申し込みはこちら
ホームページ：<http://www.ohkurayama-joycon.com/>
携帯電話：080-8424-5108

※既に特別予約(会場予約)をされた方、ホームページで予約済みの方はあらためて申し込みをする必要はありません。

【2】今後の予定（先取り情報）～「予約申し込み」は受付けておりません

■■第10回コンサート■■

◇2014年7月20日（日曜日）14:00開演（13:30受付開始）
◇出演：菊地裕介（ピアノ）

☆さまざまな可能性に挑戦し続ける菊地裕介氏が
ショパンのエチュード全24曲を演奏します。
エチュード全曲を一度に聴けるまたとないチャンス。
ショパン好き集まれ！

■■第11回コンサート■■

◇2014年9月21日（日曜日）14:00開演（13:30受付開始）
◇出演：森岡有裕子（フルート）、森岡聡（ヴァイオリン）

【3】「我が師の恩」は日本だけ？

誰もが卒業式で一度は歌ったことがある
「♪上げばとうとし～ 我が師の恩～」

明治時代半ばより歌いつがれたこの曲は、
あまりに歌詞と旋律がぴったりと合っているために
日本人が作曲したという説もありましたが、
実はずっと作曲者不詳でした。

ところが最近になってついに「Song for the close of school」
（日本語に訳せば「学校をしめくくるための歌」）
という古いアメリカの曲であることが判明！

原詞は少し古めかしい英語で、友人や教室との別れを綴っていますが
何故か「我が師の恩」は登場しないのです。

【4】コンサートのアンケートから

★前回（第8回）のジョイフルコンサート
『クラリネットとハープで奏でる春の庭』は如何でしたか？

「ジョイコン」として、「クラリネット」は初登場で、
当然クラリネットとハープのデュオも初めてでした。

アンケートの自由記入欄（ご感想など）には、
・ジュ・トゥ・ヴ、夢、その他選曲がとても良かった。
クラリネットとハープの曲は良い曲が多いですね！！
・クラリネットとハープの取り合わせは初めてでした。
（フルートとハープはよくありますよね）
とてもよいコラボだと思いました。
・楽器の説明があるのがよかった。ハープは日頃あまり聞かないし、
オーケストラの中では音が良く分からないので単独で聞いて良かった。
など、とても好意的なコメントが多く寄せられました。

また、今回から追加した「ご希望欄（演奏者、曲目、楽器など）」には、
予想以上の方からご回答を頂きました。
中には、楽器とその演奏者名を具体的に指定されたものもありました。

ご希望内容は、ジョイコンの担当部会（プレーヤー部会）にて
参考にさせていただきます。

【編集後記】

私事で恐縮ですが、長年使い続けてきた我が家のデスクトップ型パソコン（2001年購入品）をやむなく廃棄することにしました。

マイクロソフトが「Windows XP」と「Office 2003」のサポートを4月9日で終了したため、使い続けるとウイルス感染などの危険が高くなるからです。

ネットやメール、ワードやエクセルなどを使う程度なら何ら不自由を感じることはなかっただけに、少し複雑な気持ちです。
似たような経験をされた読者の方がいらっしゃるかもしれませんね。

※このメールマガジンは、
大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で
「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

■演奏会予約申し込み

次回予約申し込みはこちら

ホームページ：<http://www.ohkurayama-joycon.com/>

携帯電話：080-8424-5108

■バックナンバー

メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら

ホームページ：<http://www.ohkurayama-joycon.com/>

■配信停止／アドレス変更

メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら

info@ohkurayama-joycon.com

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会

Eメール info@ohkurayama-joycon.com

携帯電話 080-8424-5108

URL <http://www.ohkurayama-joycon.com/>
